

ONKYO

アンプ内蔵サブウーファー

SL-A251 SL-D501

取扱説明書

ご購入いただきまして、ありがとうございます。
ご使用前にこの「取扱説明書」をよくお読みいただき、
正しくお使いください。

お読みになったあとは、いつでも見られる所に保証
書とともに大切に保管してください。

—SL-D501キャビネットの表面塗装について—

ピアノ塗装仕上げタイプのキャビネットは表面保護のため、ピアノクリーナーを塗布しております。そのため、開封時、表面がくすんで見える場合があります。その際は湿った布などで一度全体をふき取り、その後乾いた布でおふき取りください。

ご注意：布は傷付き防止のため、柔らかいものをご使用ください。

安全上のご注意
(必ずお読みください) 2

主な特長/付属品 5

各部の名前と働き 6

接続をする 7

電源コードを接続する/
設置について 9

調整のしかた 10

取り扱いについて 11

困ったときは 12

主な仕様 13

修理について 14

オンキヨー ご相談窓口・修理窓口のご案内 15

安全上のご注意

安全にお使いいただくため、ご使用前に必ずお読みください。

電気製品は、誤った使いかたをすると大変危険です。

あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、「安全上のご注意」を必ずお守りください。

「警告」と「注意」の見かた

間違った使いかたをしたときに生じることが想定される危険度や損害の程度によって、「警告」と「注意」に区分して説明しています。



警告

誤った使いかたをすると、火災・感電などにより死亡、または重傷を負う可能性が想定される内容です。



注意

誤った使いかたをすると、けがをしたり周辺の家財に損害を与える可能性が想定される内容です。

絵表示の見かた

△記号は「ご注意ください」という内容を表しています。



高温注意



感電注意

⊙記号は「～してはいけない」という禁止の内容を表しています。



分解禁止



ぬれ手禁止

●記号は「必ずしてください」という強制内容を表しています。



電源プラグをコンセントから抜く



必ずする

警告

故障したまま使用しない、異常が起きたらすぐにアンプの電源プラグを抜く



電源プラグをコンセントから抜く

- ・煙が出ている、変なにおいや音がする
- ・本機を落としてしまった
- ・本機内部に水や金属が入ってしまったような異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに電源プラグをコンセントから抜いて販売店に修理・点検を依頼してください。

分解、改造しない



分解禁止

火災・感電の原因となります。内部の点検・整備・修理は販売店に依頼してください。

接続、設置に関するご注意

■通風孔をふさがない、放熱を妨げない



禁止

本機には内部の温度上昇を防ぐため、ケースの上部や底部などに通風孔があけてあります。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災やけどの原因となることがあります。

- ・押し入れや本箱など通気性の悪い所に設置しない（本機の天面、横から20cm以上、背面から10cm以上のスペースをあける）
- ・逆さまや横倒しにして使用しない
- ・布やテーブルクロスをかけない
- ・じゅうたんやふとんの上に置いて使用しない

■水蒸気や水のかかる所に置かない、本機の上に液体の入った容器を置かない



水場での使用禁止



水濡れ禁止

- 本機に水滴や液体が入った場合、火災・感電の原因となります。
- ・風呂場など湿度の高い場所では使用しない
 - ・調理台や加湿器のそばには置かない
 - ・雨や雪などがかかるところで使用しない
 - ・本機の上に花瓶、コップ、化粧品、ろうそくなどを置かない

電源コード・電源プラグに関するご注意

■電源コードを傷つけない



禁止

- ・電源コードの上に重い物をのせたり、電源コードが本機の下敷にならないようにする
- ・傷つけたり、加工したりしない
- ・無理にねじったり、引っ張ったりしない
- ・熱器具などに近づけない、加熱しない

電源コードが傷んだら（芯線の露出・断線など）販売店に交換をご依頼ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

使用上のご注意

■本機内部に金属、燃えやすいものなど異物を入れない



禁止

- 火災・感電の原因となります。特に小さなお子様のいるご家庭ではご注意ください。
- ・本機の通風孔から異物を入れない
 - ・本機の上に通風孔に入りそうな小さな金属物を置かない

警告

■長時間音がひずんだ状態で使わない



禁止

アンプ、スピーカーなどが発熱し、火災の原因となることがあります。

■長時間大きな音で使わない



禁止

本機をご使用になる時は、音量を上げすぎないようにご注意ください。耳を刺激するような大音量で長期続けて使用すると、聴力が大きく損なわれる恐れがあります。

注意

接続、設置に関するご注意

■不安定な場所や振動する場所には設置しない



禁止

強度の足りないぐらついた台や振動する場所に置かないでください。本機が落下したり倒れたりして、けがの原因となることがあります。

■本機の上に10kg以上の重いものや外枠からはみ出るような大きなものを置かない



禁止

バランスがくずれて倒れたり落下して、けがの原因となることがあります。また、本機に乗ったりしないでください。

■配線コードに気をつける



注意

配線された位置によっては、つまずいたり引っかかったりして、落下や転倒など事故の原因となることがあります。

電源コード・電源プラグに関するご注意

■表示された電源電圧(交流100ボルト)で使用する



必ずする

本機を使用できるのは日本国内のみです。表示された電源電圧以外で使用する、火災・感電の原因となります。

■電源コードを束ねた状態で使わない



禁止

発熱し、火災の原因となることがあります。

■電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らない



禁止

コードが傷つき、火災や感電の原因となることがあります。プラグを持って抜いてください。

■長期間使用しないときは電源プラグをコンセントから抜く



電源プラグをコンセントから抜く

絶縁劣化やろう電などにより、火災の原因となることがあります。

■電源プラグは、コンセントに根元まで確実に差し込む



必ずする

差し込みが不完全のまま使用すると、感電、発熱による火災の原因となります。プラグが簡単に抜けてしまうようなコンセントは使用しないでください。

■ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない



ぬれ手禁止

感電の原因となることがあります。

■お手入れの際は電源プラグを抜く



電源プラグをコンセントから抜く

お手入れの際は、安全のため電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。

使用上のご注意

■通風孔の温度上昇に注意



高温注意

本機の通風孔付近は放熱のため高温になることがあります。電源が入っているときや、電源を切った後しばらくは通風孔付近にご注意ください。

■音量を上げすぎない



禁止

- 突然大きな音が出てスピーカーを破損したり、聴力障害などの原因となることがあります。
- 始めから音量を上げ過ぎると、突然大きな音が出て耳を傷めることがあります。音量は少しずつ上げてご使用ください。

■キャッシュカード、フロッピーディスクなど、磁気を利用した製品を近づけない



禁止

磁気の影響でキャッシュカードやフロッピーディスクが使えなくなったりデータが消失することがあります。

注意

移動時のご注意

■ 移動時は電源プラグや接続コードをはずす



コードが傷つき火災や感電の原因になります。

必ずする

■ 本機の上にものを乗せたまま移動しない



本機の上に他の機器を乗せたまま移動しないでください。
落下や転倒してけがの原因となります。
グリルネットやスピーカーユニット部を持って移動させないでください。

禁止

■ 持ち運びは2人以上で行う



本機は非常に重いので、持ち運びは2人以上で行ってください。

必ずする

■ 機器内部の点検について

お客様のご使用状況によって、定期的に機器内部の掃除をお勧めします。本機の内部にほこりのたまったまま使用していると火災や故障の原因になることがあります。特に湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。内部清掃については、販売店にご相談ください。

■ 本機のお手入れについて

- 表面の汚れは、中性洗剤をうすめた液に布を浸し、固く絞って拭き取ったあと乾いた布で拭いてください。化学ぞうきんなどをお使いになる場合は、それに添付の注意書きなどに従ってください。
- シンナー、アルコールやスプレー式殺虫剤を本機にかけないでください。塗装が落ちたり変形することがあります。

主な特長

■「AERO ACOUSTIC DRIVE」を採用

AERO ACOUSTIC DRIVEとは、「空気をいかに駆動するか」という着想で、重心が低くよりハイスピードな低音を実現させるオンキヨー独自の技術の総称です。

本機では、ダクトを細長いスリット形状にすることにより、空気の圧力を高めて、重心が低くスピード感あふれる超低音を再生します。また、この技術によりダクトからの風切り音などの音質に悪影響を及ぼす不要なノイズを極限まで低減させ、低域再生範囲の拡大もあわせて実現させています。

■ピアノ塗装仕上げ/リアルウッド突板仕上げキャビネットの2タイプを採用 (SL-D501のみ)

インテリア性を追求した高光沢ピアノ仕上げキャビネットと自然の木材を表面化粧板とした変化のある木目模様キャビネットの2タイプを採用しています。

■オンキヨー独自開発のデジタルアンプ技術、「VL Digital」を搭載 (SL-D501のみ)

デジタルアンプにおける音質劣化の要因であるノイズによるパルス幅変換エラーの問題を解決した、全く新しい高精度パルス幅変調方式です。

■高域カットオフフィルター (FILTER/DIRECT) 切り換え採用

高域カットオフフィルター切り換えを「DIRECT」にすることにより、AVセンターのサブウーファー出力端子から出力される信号を忠実に再生、小型スピーカーにもバランス良く対応します。

■LINE OUTPUT端子装備

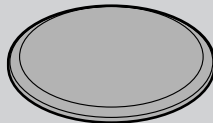
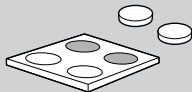
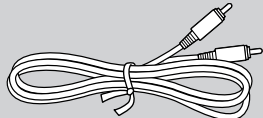
LINE OUTPUT端子により、サブウーファーの増設が可能で、超低音を強調することができます。

付属品

ご使用前に次の付属品がそろっていることをお確かめください。

() 内の数字は数量を表しています。

- 接続用ピンコード 3m (1)
- コルクスペーサー (4)
- グリルネット (1)
- 取扱説明書 (本書1)
- 保証書 (1)



カタログおよび包装箱などに表示されている型名の最後にあるアルファベットは、製品の色を表す記号です。色は異なっても操作方法は同じです。

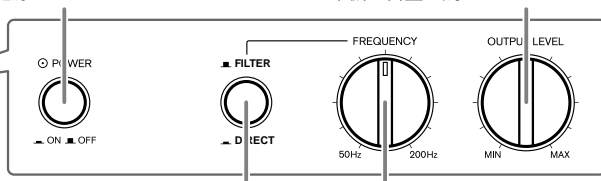
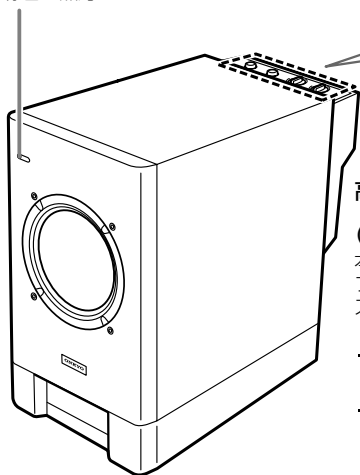
各部の名前と働き

●説明用のイラストはSL-D501ですが、SL-A251も各部の名前と働きは同じです。

電源インジケーター
電源が入っているとき
緑色に点灯します。

パワー
電源スイッチ (POWER)
本機の電源をオン/オフします。

アウトプット レベル
音量調整つまみ (OUTPUT LEVEL)
本機の音量を調整します。



高域カットオフフィルター切替スイッチ
フィルター ダイレクト
(FILTER/DIRECT)

本機に内蔵している高域をカットする
フィルターのオン/オフを切り換える
スイッチです。

- フィルター
■ FILTER : 高域カットオフフィルター
が働きます。
- ダイレクト
➡ DIRECT : 高域カットオフフィルター
は働きません。
AVセンターなどのサブウー
ファー信号をそのまま忠実
に再生します。

周波数調整つまみ
フリークエンシー
(FREQUENCY)

高域カットオフフィルター切替スイッチが
「■ FILTER」のときに、カットする周波
数を変えるつまみです。50Hz~200Hzま
での間で連続的に調整できます。1目盛は
15Hzきざみになっています。

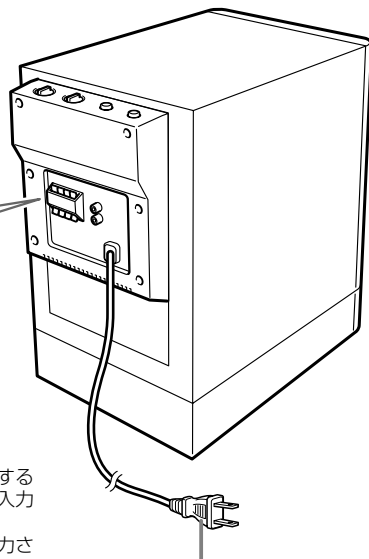
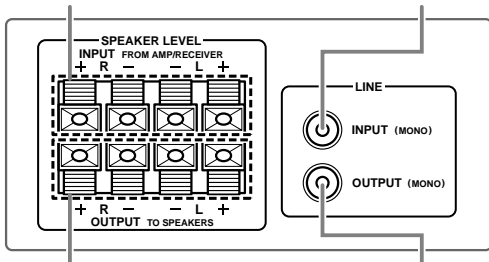
ご注意
高域カットオフフィルター切替スイッチが
「➡ DIRECT」のときは調整できません。

スピーカーレベル入力端子
スピーカー レベル インプット
(SPEAKER LEVEL INPUT)

フロム アンプ レシーバー
FROM AMP/RECEIVER)
AVセンターなどにサブウーファープリア
ウト端子が無い場合、AVセンターなどの
スピーカー出力端子と接続します。

ライン入力端子
ライン インプット モノ
(LINE INPUT (MONO))

AVセンターなどのサブウーファー
出力を接続する端子です。



電源コード

スピーカーレベル出力端子
スピーカー レベル アウトプット
(SPEAKER LEVEL OUTPUT)

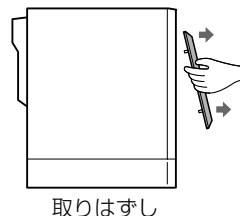
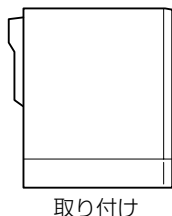
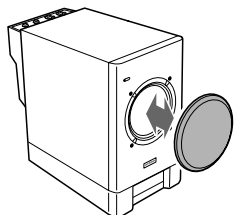
トゥー スピーカーズ
TO SPEAKERS)
お手持ちの左右スピーカーと接続する端子です。
スピーカーレベル入力端子に入力された信号が出
力されます。

ライン出力端子
ライン アウトプット モノ
(LINE OUTPUT (MONO))

サブウーファーを増設するとき使用する
端子です。増設するサブウーファーの入力
端子と接続します。
ライン入力端子に入力された信号が出力さ
れます。

■付属のグリルネットの取り付けかた

グリルネット裏面の切り欠き部分を上にして、上側にある取り付けピンを、本体のグリルネット取り付けホルダーにあわせて押し込んでください。同じように、下側の取り付けピンもホルダーにあわせて押し込んでください。取り外すときは、グリルネットを両手で持ち、下側から手前に引っ張り外します。



接続をする

安全のため、すべての接続が終わるまで本機および他の機器の電源は切っておいてください。

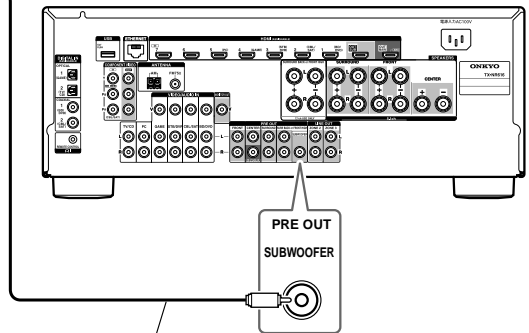
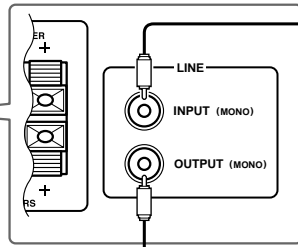
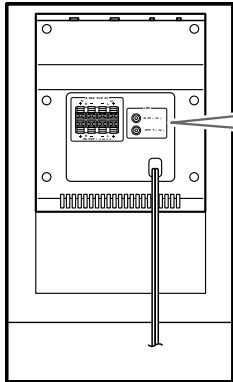
一般的な接続

サブウーファー端子 (SUBWOOFER PRE OUT) のあるAVセンターなどと組み合わせる場合は、必ずサブウーファー端子 (SUBWOOFER PRE OUT) から、付属の接続用ピンコードで本機のライン入力端子 (LINE INPUT (MONO)) に接続してください。

詳しい接続方法はお手持ちの機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

● 説明用のイラストはSL-D501ですが、SL-A251も接続方法は同じです。

SL-D501

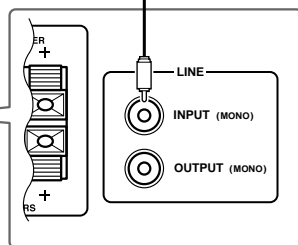
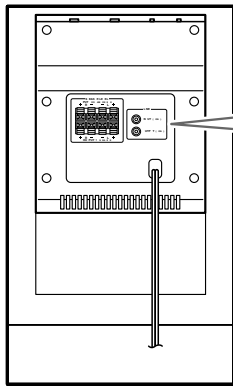


付属の接続用ピンコード

(本機には付属しておりません)

本機をもう1台増設する場合

SL-D501



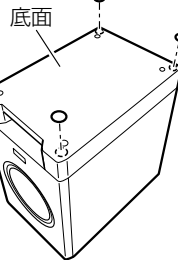
⚡
ご注意

次ページの「スピーカー端子からの接続」をしたときは、この接続では増設できません。詳しくは、次ページの「ご注意」をご覧ください。

接続の前に

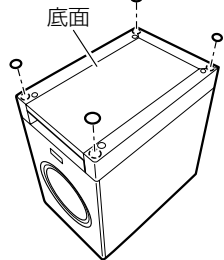
SL-D501

コルクスペーサー



SL-A251

コルクスペーサー



より良い音でお楽しみいただくために、付属のコルクスペーサーのご使用をおすすめします。コルクスペーサーを使用することですべりにくく安定して設置することができます。本機底面の四隅にコルクスペーサーを貼り付けて使用してください。

！ヒント

この方法で接続する場合は、AVセンターなどの高域がカットされた信号を忠実に再生するため、本機の高域カットオフフィルター切換スイッチを「**■DIRECT**」でご使用になることをおすすめします。

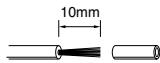
接続をする

スピーカー端子からの接続

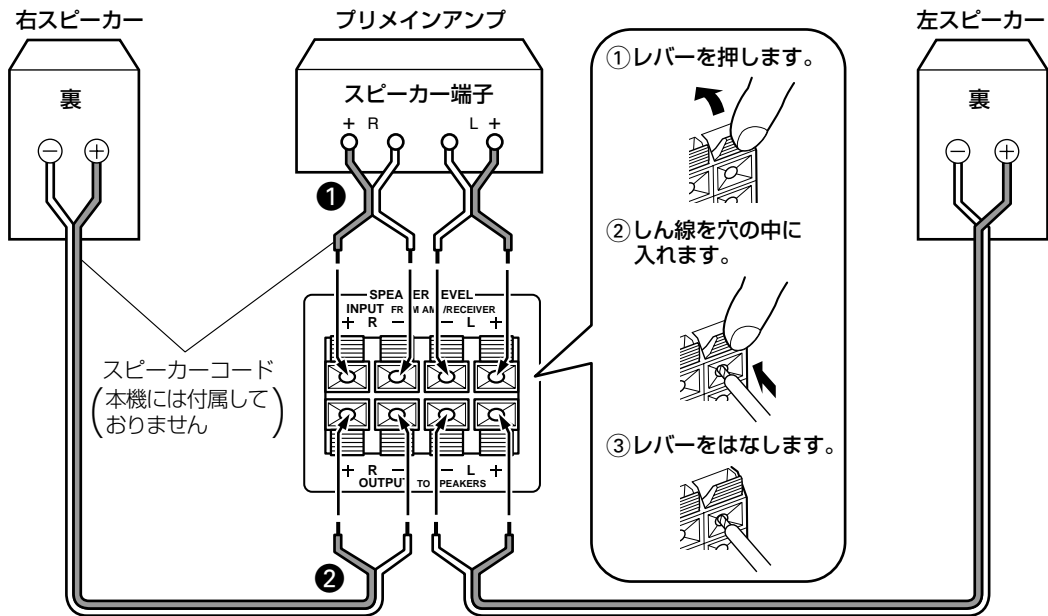
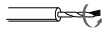
サブウーファー端子 (SUBWOOFER PRE OUT) のないアンプなどとの接続方法です。

準備

スピーカーコードの被覆を
10mm カットする




しん線の先端をしっかりと
よじる



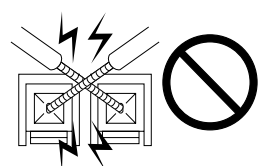
- ① スピーカーコードを使用して、本機のスピーカーレベル入力端子とアンプのスピーカー端子を接続します。
- ② お手持ちの左右のスピーカーは、本機のスピーカーレベル出力端子に接続します。

！ヒント

この方法で接続する場合は、アンプからの信号は高域がカットされていませんので、本機の高域カットオフフィルター切換スイッチを「 FILTER」でご使用ください。

ご注意

- スピーカーコードのプラス (+) / マイナス (-) / L (左) / R (右) を間違えないように確実に接続してください。プラス (+) / マイナス (-) を間違えますと低音感が損なわれます。
- 本機のスピーカー出力端子にスピーカーを接続する場合は、本機のスピーカーレベル入力端子に接続するアンプの表示より低いインピーダンスのスピーカーをつなぐと故障の原因となります。
- スピーカーコードの接続は、しん線が隣の端子や金属部に触れていないかよく確認してください。接触したまま動作させるとアンプの故障の原因となります。
- BTL接続のアンプはご使用にならないでください。アンプ、本機とも故障の原因となります。一般のアンプはBTLではありません。詳しくはご使用になるアンプの取扱説明書をご参照ください。
- サブウーファーを増設するときは、本機のスピーカーレベル出力端子と増設するサブウーファーのスピーカーレベル入力端子を接続してください。お手持ちの左右スピーカーは、増設したサブウーファーのスピーカーレベル出力端子に接続してください。

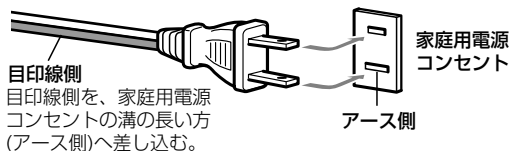


電源コードを接続する

すべての接続が完了し、本機の電源スイッチ (POWER) が「OFF ■」になっていることを確認してから、電源プラグをコンセントに接続してください。

より良い音で聞いていただくために

本機の電源コードはより良い音で聞いていただくために、極性の管理がされています。電源コードの目印線側を家庭用の電源コンセントの溝の長いほうに合わせて差し込んでください。家庭用電源コンセントの溝の長さが同じ場合はどちらを接続してもかまいません。



電源を入れて再生する

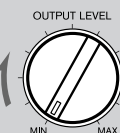
1



本機の電源スイッチ (POWER) をオン (■) にする

本機前面の電源インジケーターが緑色に点灯します。

2

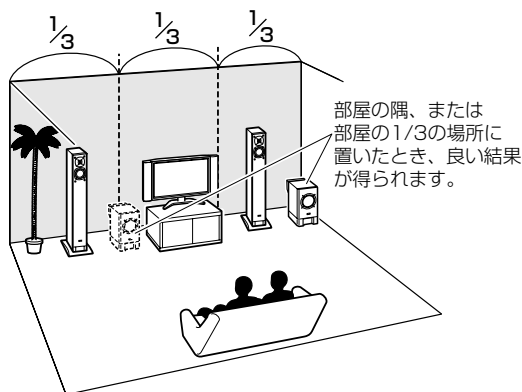


本機の音量調節ツマミ (OUTPUT LEVEL) で音量を調節する

設置について

サブウーファーは設置場所と視聴位置によって効果が大きく異なります。設置場所は実際に音を聴いて決めていただくことをお勧めします。一般的には部屋の隅、または部屋の1/3の場所に設置するのが最も効果的です。

また、壁から離して設置するよりも、壁や隅に近づけた方が、音圧が高くなります。下図は一般的な設置例です。



試聴によるサブウーファーの設置方法：

一旦設置したい場所に本機を配置し、映画や音楽の質の良い低音がよく聞こえる部分をリピート再生しながら、本機を設置する壁伝いに歩いて試聴してみてください。低音のよく響く所とそうでない所がわかったら、低音の響くところに本機を設置してください。

視聴位置も同じ方法で決めることができます。視聴したい位置の周辺で低音のよく響く所を探してください。

サブウーファーの増設について：

サブウーファーが1台のときは、低音のよく響く所とそうでない所の差が極端に表れます。サブウーファーを2台設置すると、部屋の空気を駆動するポイントが2点になるので、その差を少なくすることができます。また、得られる最大音圧も2倍になりますので、サブウーファーを増設することは大変効果的です。

サブウーファーの特長と定在波について：

サブウーファーの超低域音は波長が長いので、人間の耳で音のする方向を判別することは難しいと言われてしています。従ってサブウーファーは視聴位置の正面に配置する必要はありません。

音は一定の速度で空気を伝わりますが、壁で囲まれた部屋の中では反射波が生まれ、入力波と干渉しあうことで、音のよく響く所とそうでない所がはっきり表れる現象が起きます。これを“定在波”といいます。一般的に視聴にもっとも影響を及ぼす定在波となるのは、部屋の縦横の長さを半波長とする周波数とその倍の周波数と言われてしています。半波長の周波数の場合、壁では音圧が最大(腹：音のよく響く所)となり、部屋の中央では音圧がゼロ(節：音のほとんど聴こえない所)となります。

部屋の縦横をそれぞれに4分割する線をイメージしてください。この碁盤の目の線にあたる場所がそれらの周波数の定在波による“音のほとんど聴こえない所”となりますので、視聴位置はこの線を選避するのが効果的です。また、さまざまな試聴実験により、サブウーファーの位置も定在波の節にあたる位置を選避したほうが良いことがわかっています。このため、部屋の隅または1/3の場所に設置することをおすすめします。

・部屋の大きさとそれを半波長とする周波数

- 六畳の長辺：約45Hz
- 十畳の長辺：約35Hz
- 二十畳の長辺：約20Hz

調整のしかた

高域カットオフ周波数、音量の調整のしかた

お手持ちのスピーカーにサブウーファーを加えることで、低音域の再生帯域を広げることができます。サブウーファーを設置する部屋の状況や組み合わせるスピーカーの種類に応じて、高域カットオフ周波数（本機の高域カットオフフィルター切換スイッチが「FILTER」になっているときのみ）と音量の調整を行ってください。また、超低音は刺激が少ないためつい音量を上げすぎる可能性があります。少し控えめぐらいがちょうど良いバランスになります。（過大入力防止の点からもおすすめします。）

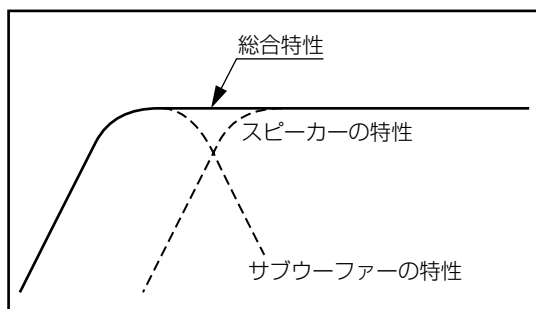
⚡ ⚡ ⚡ ご注意

過大入力が入らないようにご注意ください。常識を越える過大入力に対しては故障の原因になりますのでご注意ください。また、接続するアンプによってはスイッチ類を切り換えるとき、ノイズを発生することがあります。このノイズはスピーカーを破損する原因にもなりますので、スイッチ類を操作するときは、ボリュームを一旦絞ってから切り換えるようにしてください。

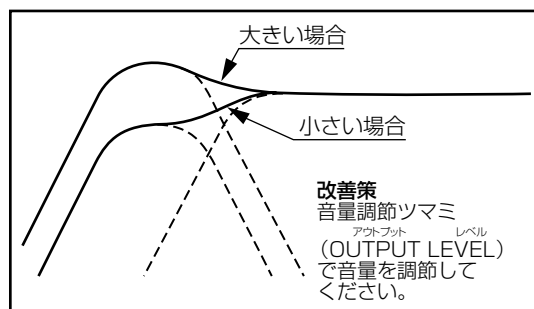
■ サブウーファーの効果について

サブウーファーの再生帯域（高域カットオフ周波数の調整）や音量が適切でない場合は、下図のように総合特性に乱れを生じることがあります。

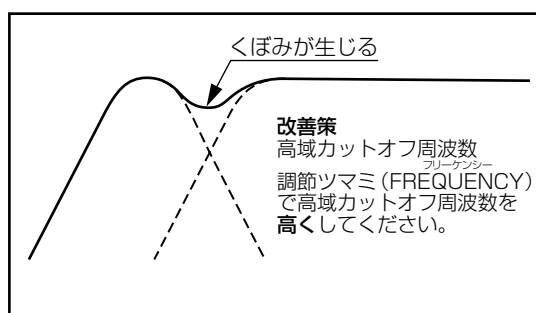
サブウーファーの再生帯域が適切な場合



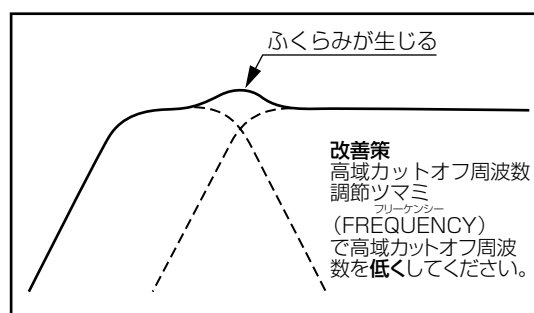
サブウーファーの音量が適切でない場合



サブウーファーの再生帯域がスピーカーの再生帯域と離れている場合



サブウーファーの再生帯域がスピーカーの再生帯域に近づいている場合



取り扱いについて

■ キャビネットについて (SL-D501のみ)

リアルウッド^{つぎいた}突板仕上げキャビネット

突板仕上げの製品は、工業製品とは異なり一つとして同じ木目模様のあるものではありません。これは、原材料の木の年輪が表面にあらわれているため、不規則な模様の変化や濃淡の変化といった個性を持っています。オンキヨーの製品は、自然が与えてくれる要素をできる限り生かしたいと考えています。このような個性も音楽を再現する道具の一部として味わってください。

ピアノ塗装仕上げキャビネット

キャビネットには、幾度にもおよぶ塗装と磨き行程を経て完成する高光沢ピアノ仕上げを採用し、インテリア性を追求したこだわりの仕様となっています。このタイプのスピーカーシステムは、表面保護のためピアノクリーナーを塗布しています。開封時、表面がくすんで見える場合は、湿った布などで一度全体をふき取り、その後乾いた布でふき取ってください。布は傷付き防止のため、柔らかいものをご使用ください。

設置する際のご注意

本機を設置する場合にはスパーサー（付属のホルクスパーサーなど）を必ず使用し、塗装部分が、**可塑剤***を含む製品に直接接触しないようにご注意ください。本機の表面を被っている塗装皮膜は、可塑剤を含む製品に長時間接触していると、色移りしたり色落ちすることがあります。これを「可塑剤の移行」と言い、可塑剤を含む製品に長時間接触することで、その製品に含まれている可塑剤が本機の塗装膜を軟化させることによって生じる現象です。

滑り止めシートやソファナーなどは、製品によって可塑剤が含まれている場合があります。本機に接触することで色が移ったり、本機の色が落ちたりするトラブルが起こった場合は保証の対象とはなりません。

*可塑剤とは、ある材料に柔軟性を与えたり、加工しやすくするために添加する物質のことで、主に、塩化ビニール（塩ビ、PVCと言われることもあります。）を中心としたプラスチック製品に用いられます。可塑剤は次のような製品に使用されている場合があります。

- 合成皮革（ソファ、椅子、テーブルクロス、衣類など）
- 滑り止めシート
- 建材（壁紙、床材、天井材など）
- 電線被覆（家電製品のコード、ケーブル類）
- フィルム・シート（雑誌や書籍の表装、機器などに使用しているカバーなど）
- 塗料・接着剤・顔料（ダンボール箱や家具などの合板用）

■ お手入れについて

本機の表面は時々柔らかい布でからぶきしてください。汚れがひどいときは、中性洗剤をうすめた液に、柔らかい布を浸し、固く絞って汚れをふき取ったあと乾いた布で仕上げをしてください。固い布や、シンナー、アルコールなど揮発性のものは、ご使用にならないでください。化学ぞうきんなどをお使いになる場合は、それに添付の注

意書きなどをお読みください。

ピアノ塗装仕上げの場合は、市販されているピアノクリーナー（鏡面ツヤ出し用）をご使用ください。塗装面に付いた手アカや汚れをすっきり取り、美しい光沢に仕上げます。お手入れ後は、ホコリや手アカが付きにくくなり、付着しても乾拭きで楽に取ることができます。

スピーカーのグリルネットにほこりがついたときは、掃除機で吸い取るか、ブラシをかけるとよくほこりを取ることができます。

■ テレビやパソコンとの近接使用について

一般にテレビやパソコンに使用されているブラウン管は、地磁気の影響を受けるほどデリケートなものですので、スピーカーを近づけて使用すると、画面に色むらやひずみが発生することがあります。

SL-D501は（社）電子情報技術産業協会（JEITA）の技術基準に適合した防磁設計を施していますが、サブウーファアの一般的な使用状況からみて、ブラウン管の真横などに設置をしないことを前提に設計されています。そのため、ブラウン管の近くに設置することの多いセンタースピーカーに比べ、防磁レベルが低くなっています。

設置の際には、ブラウン管の真横に置かないでください。その他の設置のしかたによって、色むらが生じる場合は、一度テレビの電源を切り、15分～30分後に再びスイッチを入れてください。テレビの自己消磁機能によって画面への影響が改善されます。その後も色むらが残る場合はスピーカーをテレビから離してください。また、近くに磁石など磁気を発生するものがあると本機との相互作用により、テレビに色むらが発生する場合がありますので設置にご注意ください。

SL-A251は防磁設計ではありません。ブラウン管テレビを本機の近くでご使用になると、色むらやひずみが生じる場合があります。そのときは、本機をテレビから離してください。

■ 設置上のご注意

- 本機のキャビネットは木工製品ですので、温度や湿度の極端に高いところや低いところは好ましくありません。直射日光の当たる所や冷暖房機具の近く、浴室や台所の近くなど、湿気の多いところは避けてください。
- 振動や傾斜のないしっかりとしたところに置いてください。
- レコードプレーヤーやCDプレーヤーのそばで本機を使用したとき、ハウリングや音飛び現象が起こることがあります。そのときはプレーヤーと本機の距離を離すか、本機の音量を下げてください。

■ 使用上のご注意

アンプのトーンコントロールやグラフィックイコライザー等で低域を極端にブースト（増強）したり、低域が異常に強調された特殊なソースを再生した場合、本来の信号以外に異常な音が発生する場合があります。これはスピーカーユニットの限界を超え、忠実な再生ができなくなったときに発生する異常音で、故障ではありません。しかし、このような状態でご使用になると、スピーカーユニット破損の原因となりますので音量を下げてください。

音のエチケット

楽しい映画や音楽も、時間と場所によっては気になるものです。隣近所への配慮を十分しましょう。特に静かな夜間には窓を閉めるのも一つの方法です。お互いに心を配り、快適な生活環境を守りましょう。



困ったときは

まず下の表で点検してみてください。接続した他機に原因がある場合もありますので、他機の取扱説明書も参照しながらあわせてご確認ください。

電源

電源が入らない

- 電源プラグがコンセントから抜けていないか確認してください。

音声

低音が出力されない/小さい

- 接続用ピンコードのプラグが正しく奥まで差し込まれているか確認してください。
- 音量調整ツマミ（OUTPUT LEVEL）の位置を確認してください。
- スピーカーコードが正しく接続されているか確認してください。
- スピーカー設定が可能なAVセンターなどと接続している場合、AVセンター側のスピーカー設定が「サブウーファー無し」に設定されていないか確認してください。
- 接続しているAVセンターの出力レベルを確認してください。
- 低音の入っているソースを再生してください。

ブーンというハム音が出る

- 接続用ピンコードのプラグが正しく奥まで差し込まれているか確認してください。
- 本機の近くにテレビなどの誘導雑音を発生する機器がないか確認してください。
- 電源コードを他の壁コンセントに差し込んでみてください。

主な仕様

■SL-D501

形式	アンプ内蔵 バスレフ型	電源	AC100V (50/60Hz)
再生周波数範囲	FILTER : 25Hz~200Hz DIRECT : 25Hz~1.5kHz	消費電力	55W
高域カットフィルター	50Hz~200Hz (可変)	外形寸法 (W×H×D)	285×476×447mm (グリルネット、ターミナル突起部含む)
実用最大出力	100W (4Ω・JEITA)	質量	19kg (グリルネット含む)
入カインピーダンス	スピーカー入力: 4.7kΩ ライン入力: 54kΩ	その他	防磁対応 (JEITA) 高域カットフィルター 切換スイッチ (FILTER/DIRECT)
入力感度	スピーカー (L/R) 入力: 2V ライン入力: 68mV		
使用スピーカー	20cmA-0MFモノコックコーン型		
入力端子	ライン入力端子、 プッシュ式スピーカーレベル入力端子		
出力端子	ライン出力端子、 プッシュ式スピーカーレベル出力端子		
キャビネット内容積	32.7ℓ		

■SL-A251

形式	アンプ内蔵 バスレフ型	電源	AC100V (50/60Hz)
再生周波数範囲	FILTER : 30Hz~200Hz DIRECT : 30Hz~1.5kHz	消費電力	50W
高域カットフィルター	50Hz~200Hz (可変)	外形寸法 (W×H×D)	255×399×443mm (グリルネット、ターミナル突起部含む)
実用最大出力	75W (5Ω・JEITA)	質量	13.5kg (グリルネット含む)
入カインピーダンス	スピーカー入力: 4.7kΩ ライン入力: 54kΩ	その他	防磁対応無し 高域カットフィルター 切換スイッチ (FILTER/DIRECT)
入力感度	スピーカー (L/R) 入力: 2V ライン入力: 68mV		
使用スピーカー	20cmA-0MFモノコックコーン型		
入力端子	ライン入力端子、 プッシュ式スピーカーレベル入力端子		
出力端子	ライン出力端子、 プッシュ式スピーカーレベル出力端子		
キャビネット内容積	25.1ℓ		

※仕様および外観は性能向上のため予告なく変更することがあります。

修理について

■保証書

この製品には保証書を別途添付していますので、お買い上げの際にお受け取りください。

所定事項の記入および記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。

保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

■調子が悪いときは

意外な操作ミスが故障とされています。

この取扱説明書をもう一度よくお読みいただき、お調べください。本機以外の原因も考えられます。ご使用の他のオーディオ製品もあわせてお調べください。それでもなお異常のあるときは、電源プラグを抜いて修理を依頼してください。

修理を依頼されるときは、下の事項をお買い上げの販売店、または15ページの「オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内」記載のオンキヨー修理窓口までお知らせください。

▶ お名前

▶ お電話番号

▶ ご住所

▶ 製品名 SL-A251/SL-D501

▶ できるだけ詳しい故障状況

■オンキヨー修理窓口について

詳細は15ページに記載の「オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内」をご覧ください。

■保証期間中の修理は

万一、故障や異常が生じたときは、商品と保証書をご持参ご提示のうえ、お買い上げの販売店またはオンキヨー修理窓口へご相談ください。詳細は保証書をご覧ください。

■保証期間経過後の修理は

お買い上げ店、またはオンキヨー修理窓口へご相談ください。修理によって機能が維持できる場合はお客様のご要望により有料修理致します。

■補修用性能部品の保有期間について

本機の補修用性能部品は、製造打ち切り後8年間保有しています。性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。保有期間経過後でも、故障箇所によっては修理可能な場合がありますのでお買い上げ店、またはオンキヨー修理窓口へご相談ください。

オンキヨー ご相談窓口・修理窓口のご案内

※販売店の長期保証制度にご加入いただいた製品の保証期間内の修理は、お買い求めの販売店へご依頼いただくようお願いいたします。

■「送付」による修理をご希望の場合は

下記のオーディオリペアセンターへご送付ください。

〒682-0925 鳥取県倉吉市秋喜243番地

オンキヨー 鳥取オーディオリペアセンター 修理受付窓口宛 050-3161-9555

(詳しくは) <http://www.jp.onkyo.com/support/servicebase.htm>

(ONKYOホームページの「サポート」→「オーディオ製品のサポート」→「修理のお手続き」で閲覧可能)

■ お近くの修理拠点へ「持込み」をご希望の場合は

下記のURLにて全国の修理拠点のご案内がございます。お持込みの際には営業日を確認のうえでご訪問いただくようお願いいたします。

(詳しくは) <http://www.jp.onkyo.com/support/servicebase.htm>

(ONKYOホームページの「サポート」→「オーディオ製品のサポート」→「修理のお手続き」で閲覧可能)

■「出張修理」をご希望の場合、その他ご不明な点は

下記のオンキヨー オーディオコールセンターへご相談ください。

オーディオコールセンター 050-3161-9555 (IP電話)

(受付時間：10:00～18:00 土・日・祝日及び弊社で定める休業日を除きます)

※出張修理の際は、修理費用以外に出張費用が別途かかります。また、地域によっては、出張修理のできないエリアがございます。あらかじめご了承ください。

2012年1月現在 住所、電話番号、受付時間などは変更になる場合がございます。

ONKYO

オンキヨーサウンド&ビジョン株式会社

〒572-8540 大阪府寝屋川市日新町2-1

製品のご使用方法についてのお問い合わせ先：

オンキヨーオーディオコールセンター

☎ 050-3161-9555 (受付時間 10:00~18:00)

(土・日・祝日・弊社の定める休業日を除きます)

サービスとサポートのご案内：<http://www.jp.onkyo.com/support/>

SN 29401173

(C) Copyright 2012 Onkyo Sound & Vision Corporation Japan All rights reserved

G1203-1



* 2 9 4 0 1 1 7 3 *